

エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

【会報124号】 2020.4.3

F G F 助成事業

## ミャンマー イェジン農業大学を訪問して

筒木 潔

2、3年前にふらっとエゾリスの会の仲間に入れて頂いた筒木と申します。以前は畜大に勤めていて、土壌学を教えていました。野生動物のことや植物のことにに関しては全くの素人ですが、自然に親しむことは好きですのでよろしくお願いします。

昨年に引き続き、今年の2月下旬から3月上旬にかけて JICA の専門家として2週間ミャンマーに行ってきました。行き先は首都ネピドーの東、約30kmのところにあるイェジン農業大学でした。ミャンマー 唯一の農業大学の研究教育レベルの向上に貢献するための5年プロジェクトで、最後の2年分を担当しました。私の担当は土壌学と農業生産および気候変動に関する基礎的内容を講義と実習で教えることでした。受講生はイェジン農業大学の教員と院生および農業省の研究者たちでほとんどが女性でした。

私が滞在した季節は乾期で、気温も1年のうちでは低い期間なので土壌調査や旅行をするのには便利でしたが、草花が咲き誇り、市場に新鮮な果物があふれるのは6月から8月の間のようです。この頃は気温も高くなり、毎日土砂降りが続くので大変なようですが、ミャンマー の動植物や自然に興味のある人はこの季節にも訪れるべきでしょう。

JICA からの派遣なので用務の直前に赴任し、用務が済んだらすぐに帰国するスケジュールとなっており、自由に観光などをする日程はありませんでしたが、現地のプロジェクトスタッフのご配慮で今回は中間の土日祝日にシャン州への小旅行をさせて頂きました。受講生中の11名とコーディネーター、運転手および私の14名が参加する賑やかな旅行となりました。

現地の自然に接する機会は、朝晩の散歩やゲストハウスから大学オフィスまでの片道徒歩15分ほどの往復の間だけでしたし、ちょうど乾期で樹木や草花も休眠期にあるものが多かったので、多くのものを紹介することはできませんが、見ることのできた範囲で紹介させていただきます。



図 1

図 2

図 1 の上 2 枚の写真は *Butea Monosperma* (Flame of the Forest、ハナモツヤクノキ) で、ちょうど花期にあたりあちこちで咲き誇っていました。花は染料になり、若木は緑肥になるなど有用な木です。下の 2 枚の写真は *Bombax ceiba* (Kapok tree、Red silk cotton tree、キワタ、中国では攀枝花) という大きな木です。花期は 12 月から 1 月とのことで、もうほとんど花が散ったあとでした。標高 1000m 以上のシャン州ではまだ花が咲いていました。その他の木としては、プルメリアの仲間も花盛りでした。

図 2 は大学キャンパスや農場内に咲いていた花で、左上は *Callistemon lanceolatus* (Bottle brush tree)、右上は *Nerium oleander* でキョウチクトウの仲間、左下は *Caesalpinia pulcherrima* (Pride of Barbados, Dwarf Poinciana)、右下は *Tabebuia chrysantha* (Golden tree) です。



図 3

図 4

図 3 の左上は白いキョウチクトウの花、右上はハイビスカス、左下はブーゲンビリア、右下は *Cassia bakeriana* (Pink cassia) です。図 4 の左上は *Calliandra tergemina emarginata* (Compact Red Powderpuff)、右上は *Catharanthus roseus* (ニチニチソウ)、左下は *Tabernaemontana cumingiana* (キョウチクトウ科サンユウカ)、右下は *Cassia fistula* (Golden rain tree, Golden shower) です。



図5

図6

鳥については、図5左上のように水田にはシラサギの仲間がたくさんいましたが名前はわかりませんでした。図5の右上と左下は *Pycnonotus cafer* (Red-vented Bulbul、シリアカヒヨドリ) でよく見かけました。図5の右下は *Merops orientalis* (Green Bee-eater、ミドリハチクイ) で、尾羽にさらに長い飾り羽が付いており優雅に飛んでいました。図6は全て *Acridotheres tristis* (Common Myna、インドハッカ) です。キャンパス内や圃場にたくさんいました。インドハッカはムクドリや九官鳥の仲間です。目の周りにマスクをしたような怖い顔をしています。性質も獐猛だそうで、他の野鳥や小動物の生息域を狭めているそうです。畑と林の境界域や人間の住む場所を好んで生息し、人間が捨てた生ゴミなども餌にしています。最近この鳥がオーストラリアまで拡散して、現地の在来種の野鳥に深刻な影響を及ぼしているため、外来種として駆除されているとのこと。もともとは害虫を食べさせるために導入したとのことなので、人間のわがままに過ぎません。リスもいましたが残念ながら写真に撮ることができませんでした。

いろいろ貴重で思い出深い体験をさせていただきましたが、予定の分量を過ぎてしまいましたのでここで終わらせて頂きます。昨年度と今年度の旅行の思い出を私のホームページに載せてありますので、是非ご訪問下さい。下記のURLのうち、上段が2019年度、下段が2020年度の旅行記です。

[http://timetraveler.html.xdomain.jp/special2019\\_yn.html#contents](http://timetraveler.html.xdomain.jp/special2019_yn.html#contents)

[http://timetraveler.html.xdomain.jp/special2020\\_yn.html#contents](http://timetraveler.html.xdomain.jp/special2020_yn.html#contents)

ミャンマー連邦共和国



ミャンマー (黄色部分)  
外務省ホームページより



『フィールドに出よう!』

今年も雪解けは、早いように感じます。帯広の森内では、エゾアカカエルの鳴き声と共に卵塊調査が始まります。エゾサンショウウオも負けずと産卵しています。



《エゾサンショウウオの卵囊(らんのお)》

ザゼンソウ、アズマイチゲ、フクジュソウ等の林床植物も自己主張をしています。



《ザゼンソウ》

さあ、春の息吹を感じましょう!

編集後記

新型コロナウイルスの感染力が強く、収まる気配がまだ見えてきません。動物から人へ、人から人へと感染しているようですが、地球の中の人間は一握りです。自然界との付き合いを今一度考えることも必要です。  
n. m

エゾリスの会 会報124号

発行日: 2020. 4. 3

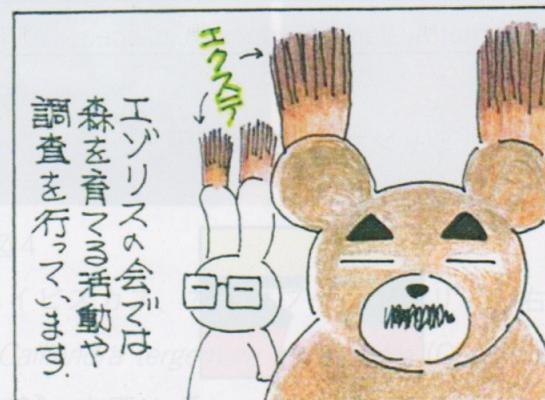
発行: エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西 17 条南 3 丁目 6-14

☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

真 エゾリスの会 No.36



by 7男